

複合型施設

都留市議会研修@山口県下関市

『複合型施設の研修』概要

下関市では

- 市役所の支所と園芸センターという2つの無収益施設が老朽化。
- それに伴い2つを中心に複合型施設の建設
- PFI方式で民間活力を入れながら総事業費30億円。
- 保育園、クリニック、高齢者施設、販売用土地などを付帯

私の注目

経済波及効果と人口減の今新しい箱を作る際にどの程度の長期的な利用を考えているか？

→経済波及効果についての数値目標は無い

もともと老朽化の施設の建て直しが政策のベースなので収益性よりも支所機能などの移転が核となる事業

意見

大規模予算を組んでいる（30億円）こともあり後の経済波及効果を計算に入れていないのは如何なものかと感じた。

複合型の施設という考え方には賛成なのであるが、どれだけの可能性を見出せるかが重要であると考えます。

複合施設としての魅力は皆無だと感じた。

支所機能と園芸センターがある事で最低限の機能はあるが勿体ない感が強いと感じた。

リサイクル

都留市議会研修@山口県宇部市リサイクルプラザ
2023.07.27

『リサイクル事業』概要

- 宇部市では年間のゴミ処理量が大幅に減少

H27年：66372t・R04年：56260t

政策として主なものを抜粋

- ①ゴミ処理機、ガーデンシュレッダーの補助金
- ②資源ゴミ拠点回収施設の利用
- ③段ボールコンポストの普及
- ④子育て世代向けリサイクル事業

①ゴミ処理機やガーデンシュレッダー

家庭の生ごみを処理する事によりゴミが減少

- 単純に、生ごみは乾燥すれば少なくなる為
- その促進のために補助事業もある

補助率は自治会向けのガーデンシュレッダー
個人向けの生ごみ処理機

➡個々の意識も高くなると感じる。自治会向けにする事で自治会の活動の幅も広がり、行政の仕事が減少する可能性を感じた

②資源ゴミ回収施設

市内の各地域に本来月1回としかできない資源ごみやと燃えないごみ、粗大ゴミ、危険ゴミなどを集積する場所を設置

24時間いつでもゴミ捨てが可能となる

➡燃えるゴミ以外の普段回収してくれないゴミをいつでも無料で出せることは使い勝手最高。業者も時間制限が無く回収が可能となる。都留市でも導入をしていくように提言していきたい。

③段ボールコンポスト

段ボールコンポスト事業で生ごみから有機肥料を作成

有機肥料づくりにしていくなど具体的な活用をしているところがSDGs的にも素晴らしい

➡個人農家と連携していく事で更に充実する可能性がある

④子育て世代向けリサイクル

- センター内にリペア含めて資源ゴミをリサイクルして次の世代に高額なランドセルや制服、勉強机などを利活用できるようにしております。
- また、ダイエット器具やダンスなども数百円で、再販売するなどリサイクル♻️意識がとても高い!!

➡こちらは行列ができるほど人気の政策で生活困窮世帯など別角度からの政策としても非常に魅力的である。特にランドセルなどは高額な為ありがたいと感じる方も多いと考える。

城下町の視察

都留市議会研修@山口県萩市
2023.07.27

『城下町の視察』 概要

- 地元のボランティアガイドさんに説明をして頂きながら城下町探索
- 途中街づくりの歴史に関するワークショップも開催してくれた

都留市も城下町なので、今後城下町×観光を鑑みた際に必要だと考える。

意見

- 長期的な視点で城下町を作り直す事で富士山観光×城下町観光での観光客の獲得が狙える
- 富士山周辺で唯一の観光地を活かしていない為、文化財の勝山城は難しいが現市役所を城化して谷村町駅～都留市駅間を江戸の町のようにして歩ける形にする。
- 美術館、博物館もあり、空き家も多いので段階的に進めていく事が良いかと思う。
- 長期的な絵をかくことが必要

松陰読本 × 小中一貫教育

都留市議会研修@山口県萩市
2023.07.28

『松陰読本』 概要

- 吉田松陰の書籍を小学生が読むことを教育事業として行っている
- 志を育てる教育の推進や、ふるさと学習の展開などにより、郷土の歴史を生かした教育に取り組む

明倫小では、松陰先生の珠玉のことばを毎朝そろって朗唱する。

朗唱文は、各学年の学期ごとに決めてあり、朗唱文に対して、自分のめあてを設定し実践に向けての取り組みを継続している。

萩市内小学校4年生以上に配布されている「松陰読本」を活用し、総合的な学習の時間に「不易」といえる松陰先生の生き方、考え方を学ぶ松陰教学。

松陰先生について調べたことをまとめて発表したり、松陰神社で実際に観光客にガイドをしたりする学習に取り組んでいる学校もある。

さらに、「志」シートを活用し、小学校の1 / 2成人式や中学校の立志式で、自分の「志」を発表している。

副読本「わたしたちのふるさと萩」、「郷土萩」を活用し、多くの偉人、豊かな自然、価値ある歴史、伝統的な文化や産業を学ぶことによって、ふるさと萩市を誇りとする子どもの育成に努めている。

意見

明倫小の校長先生も来ていただき説明を受けた。

卒業前に松下村塾にて発表をできるという事は子供達が将来そのかけがえのない経験を感じると思う。

日々の積み重ねでシビックプライドの醸成もできていると思うが、課題としてはそれをどう地元に住み続けることに繋げていくかかと感じた。

『小中一貫教育』 概要

- 市町村合併で土地が広い萩市では、どうしても学校数と生徒児童の数が合わない
- 人口、生徒数、児童数を見ても都留市より若干多いだけなのに学校数は倍
- それらの背景から学校を残すための小中一貫教育という形になって行った印象がとても強い
- 一体型の学校、分離型の学校、大規模校と形態としては色々な学校の運営
- 教員の理解を得ることはかなり厳しい：中学生の教員と小学生の教員の指導方針の差や県教諭が県内の他の地域から萩に来た時の対応など
- 中学生、高校生になると学力のある高校やスポーツの強い高校を選んで萩から出ていってしまうという厳しい現状

『小中一貫教育』 課題

- 教員の理解を得ることはかなり厳しい：中学生の教員と小学生の教員の指導方針の差や県教諭が県内の他の地域から萩に来た時の対応など
- 中学生、高校生になると学力のある高校やスポーツの強い高校を選んで萩から出ていってしまうという厳しい現状

意見

率直な意見としては、
『統廃合の説明の際に市民が怒るので誤魔化して小中一貫教育にした？』
とてもネガティブな発想からの政策だと感じた。

実際、閉校の学校も休校という扱いにしており費用面でも市政の足を引っ張ってしまうと感じた。

この政策に関してのメリットはなく、住民意識を分散させるための対処療法でしかなく学べることは非常に少なかった。

教員のモチベーションも決して高くはない。

進めるにあたって各校に特色を持たせるのか、市内統一にしていくのかから決めていく必要がある。